

第1082回教育委員会会議録

- 1 日 時 平成30年7月12日(木) 午後3時00分～午後4時35分
- 2 場 所 教育委員会室
- 3 出席者 東村教育長 吉井委員 西野委員 八田委員 南部委員 原委員
松田教育振興監 佐々木学校教育幹 吉野企画幹(競技力向上)
片柳教育政策課長 巣守学校振興課長 清川高校教育課長
中森課長(高校学力向上) 浦井義務教育課長 山本課長(小中学力向上)
坂本スポーツ保健課長 西川競技力向上対策課長

4 議 題

- 日程第1 第11号議案 平成31年度福井県立高等学校入学者選抜における英検加点の取扱いの決定について
- 日程第2 第12号議案 平成31年度福井県立高等学校特色入学者選抜制度の創設について
- 日程第3 第13号議案 福井県スポーツ推進審議会委員の任命について

5 審議事項

- (1) 開会宣告 午後3時00分
- (2) 会議録署名人の指名 西野委員 原委員
- (3) 議事要録

教育長 本日の日程第3 第13号議案、協議報告事項の4から5については、事務執行上、公開が適当でないことから、非公開とする旨発議。

—————当該議案を非公開と決する—————

教育長 日程第1、第11号議案を議題

高校教育課長 資料に基づき説明

教育長 前回の委員会で議論した内容と同じものであるが、6月の県議会においても特に異論は出なかったので、今回の委員会で決定したいと考えている。
また、準2級、3級にそれぞれ加点する学校についても決定したい。以前から、3級以上の受験者が8割を超える学校、あるいは準2級を取得してい

る受験者が4割近い学校を準2級から加点と考えていたが、概ねそれに沿った形になった。

ただし、加点対象級についてそれぞれの高校の考えや思いもあるので、各高校の校長先生の意見も聞きながら調整を行った。

南部委員 各高校の校長先生と話し合った結果が、今回の加点対象になっているのか。

高校教育課長 26校の全ての校長先生と協議を行って決定したものである。

八田委員 この加点対象は、毎年変わるのか。

教育長 スピーキングテストを導入した時点で、まず英検の加点制度についてあらためて協議していきたい。ただし、全国からも注目されている制度であり、この制度によって中学校での3級取得者が62.8%という全国一の結果を得ることもできた。これについては十分評価をしながら、再度教育委員会で協議していきたい。その時には、加点対象級の変更も当然出てくる。

南部委員 英検の受験料など、サポートについてどうなっているのか。

義務教育課長 受験料の補助については、4、5級についても実施していく。3級以上と同じように1回のみ補助となる。

西野委員 小学生で英検5級を受験している児童はどれぐらいいるのか。

義務教育課長 小学校についてはデータがないので分からない。

教育長 小学校の外国語の授業を見ているとしっかり取り組んでおり、5級や4級を取得する子どももこれから増えてくることが予想される。

教育長 第11号議案について、原案に対する異議の有無を確認。

—————原案どおり可決—————

教育長 日程第2、第12号議案を議題

高校教育課長 資料に基づき説明

原委員 実施要項が8月、募集人数の発表が10月というのは、例年と同じか。

高校教育課長 一昨年まで実施要項は10月下旬に出していた。昨年は英検加点のこともあったので、より早く生徒や保護者に情報を伝えるために実施要項の発表を8月にした。今年も定員以外の内容については8月に発表する。

教育長 それぞれの高校がどういう生徒を募集するのか、募集の基準なども要項に入れていかなければならないと考えている。

西野委員 武生東高校の課題探究や地域貢献について、それぞれの内容を教えてほしい。

高校教育課長 課題探究については新学習指導要領にも取り上げられており、武生東高校でも、今後力を入れていきたいという考えを持っている。そのために、中学校までに様々な課題研究に取り組んだ生徒など、探究活動にしっかり取り組める生徒を募集したいと考えている。課題探究の範囲を校内か校外とするかは、様々なコンテストや研究発表もあるので高校側と協議していきたい。

同じように地域貢献についても、地域に根差した高校を目指し、地域を支える人材を育成していきたいという思いから、小中学校の時に地域に貢献した生徒を募集したいという考えである。地域貢献の具体的な活動について、今後高校側と協議していきたい。越前市だけでなく鯖江市、丹南地区の各地域で地域貢献に関わっている中学生もいるので、地域に貢献できる人材を育成するために模範となるような生徒を募集したい

吉井委員 特色選抜の種目や分野については、各高校から申し出があったものか。

高校教育課長 各学校の校長先生との協議を何度も重ねて決めた。校長先生の要望に答えられないものもあったが、実施校を絞ることで強化を図っていきたい。

教育長 体育・芸術推薦との違いを教えてください。

高校教育課長 提出書類の志願理由書について、体育・芸術推薦の場合は中学校の校長先生の推薦書が必要であり、ジュニアアスリートの場合は各種目協会の会長の推薦書が必要であった。また、体育・芸術推薦については、校長先生の推薦書があるので、実技試験を実施しない場合もあった。

教育長 今回からは、自己推薦の形になるので、種目によっては志願者も増えることが予想される。学科試験、実技試験もあるので不合格者も多くなるであろう。

八田委員 スポーツ分野の中で、ボクシングやレスリング、ウェイトリフティング、ライフル射撃など、中学校で馴染みのない種目については、どのような生徒を選抜することになるのか。

高校教育課長 詳細については要項に示されることになるが、まずは種目に対する興味・関心が高い生徒を選抜していきたい。それぞれの種目について、まったく経験がなくてもやりたいという生徒もいる。オープンスクールでの体験会や教室等に参加する中でそれぞれの競技に対する興味を高めてもらい、是非受験してほしいと考えている。また、競技実績を問うわけでもない。

吉井委員 種目の中に水泳などは入っていないが、32年度から新しい種目や分野を増やすことはあるのか。

高校教育課長 実施状況、実績等を見ながら、見直しを図っていきたい。水泳について、

特色選抜という形では敦賀高校と若狭高校で実施しないことになったが、その2校が水泳をしなとか指導に力を入れないというわけではない。

原委員 特色選抜の実施校について、野球が12校あるのに対して、同じような競技人口のサッカーが2校だけになっている。このような競技による実施校のばらつきが出たのはなぜか。

高校教育課長 原則各種目1～3校に絞ってきた。硬式野球については何校かに絞るのではなく、地元の選手が県外に流れないように、これまでの11校に金津高校を加えた12校から特色選抜を始めることにした。各地域に特色選抜の実施校を置くことで県外流失を止めたいという考えから、今回のような形になった。

教育長 私立高校が力を入れている種目は、公立高校ではなかなか勝負にならないので選手が私立高校に流れる傾向が強い。また、校外で活動している硬式野球のボーイズリーグやサッカーのクラブチーム、硬式テニスなどは、各中学校での評価が難しい。このようなことから、これまでの体育・芸術推薦をやめて特色選抜制度を作ることにした。

八田委員 特色選抜の募集人数はどれぐらいになるのか。

高校教育課長 体育・芸術推薦なみの人数で考えている。スポーツについては250人ぐらい、文化分野などについては40人ぐらいを考えている。

教育長 これによって一般入試の人数を減らすわけではなく、一般入試の人数はしっかり確保していきたい。今までの体育・芸術推薦の学校数を絞る形にしたという考えである。

教育長 第12号議案について、原案に対する異議の有無を確認

———原案どおり可決———

◎協議・報告事項

(1) 中学校3年生対象英検講座の開催について

吉井委員 8月11日、12日、19日、もしくは午前の部、午後の部のどれか1つしか受講できないのか。

義務教育課長 何回受講しても良いことになっている。

南部委員 定員に制限はあるのか。

義務教育課長 特に制限はないが、大きな会場で行うので多くても十分対応できる。

教育長 今回で3回目の開催だが、毎回多くの参加者が集まり子どもたちは一生懸命に取り組んでいる。今回から新たな取り組みとして民間事業によるスピーキングテストの試行を行うので、できるだけ多くの中学校3年生に参加してもらいたい。今年度の高校入試にはスピーキングテストはないが、大学受験やこれから様々な場面で同じようなテストを受けることも考えられるので、きっと役に立つものと考えている。

このスピーキングテストでは、一人ひとりにタブレットを配布し、画面に出てくる絵を見て説明したり、外国人の問いかけに英語で答えたりする。事業者は、回収したタブレットをアメリカ本国に送り、アメリカで採点をしてもらうことになる。最終的に採点結果は個人に返ることになるので、中学校の英語の先生にも見てもらい、その結果と普段の授業の実績との相関関係を検証するなどして、スピーキングテストの有効性を明らかにしていきたい。有効性が高いのであれば、将来的には高校入試にも活用していきたい。

西野委員 3級のコースを受講したい場合は、4級を取得していなければいけないのか。例えば、3級を受けて準2級も受けることは可能なのか。

佐々木教育幹 可能である。受講者が増えるのであれば、講師を増やして教室も増やしていきたい。

教育長 スピーキングテストについては、級に関係なく、どの受講者も同じテストを受けることになる。また、スピーキングテストは一人一回の受験になってくる。

吉井委員 日時や午前・午後など、受講日の指定はあるのか。特定の日に集中することはないのか。

義務教育課長 特に指定はなく、生徒の希望を聞いて受講日を決定する。多少、人数に偏りは出てくるが、昨年ほどの会場も上手く入っていた。

佐々木教育幹 福井市内の中学校は規模が大きいので、学校によって指定をしたこともあったが、それでも受講者の希望を優先して決めた。

原委員 2回目の英検の試験日はいつか。

義務教育課長 2回目は、10月7日である。英検の出願期間の一か月前に講座を実施することになる。

佐々木教育幹 昨年は3月に講座を実施し、6月に行われた今年度1回目の英検合格を目指した。

西野委員 この講座は中学生限定で、教員などには見に来ることできないのか。

佐々木教育幹 現場の教員も参加して、指導の様子を見ることは可能である。これまでも、各中学校で面接練習などは行っていたが、英検受験者が増えたこともあってこのような講座を開催することにした。ただし、スピーキングテストについ

ては子どものみで実施する。

原委員 二次試験の練習は、どのように行うのか。

佐々木教育幹 スピーキングテストの概要を説明して、実際にテスト形式で練習する。準2級や2級受講者については、英作文などの実際の勉強方法についても教えるなど、その級に応じた内容を指導している。

(2) 業務改善の進捗状況について

吉井委員 学校閉庁日について、各学校で閉庁日を決めているのか。

学校振興課長 学校によって閉庁日は異なっており、13日から17日まで休む学校もあれば、13日から15日を閉庁日としている学校もある。

吉井委員 個人的に日を指定して、5日間休みを取りたいなどの希望は通るのか。

学校振興課長 教員には夏季休暇が認められており、年次休暇などもあるので、閉庁日以外はそれで対応してほしい。学校閉庁日の期間中は職員室も事務室も閉じた状態にして、全職員が休んでほしいと考えている。

南部委員 学校閉庁日の制度は、連続して3日間以上の休暇を取ることを推奨しているのか。

学校振興課長 今回の制度では、連続してという言葉は入れてはいないが、各学校とも3日間から5日間の休みをお盆の時期に入れており、どの学校もその時期に学校閉庁日を連続して設定している。

原委員 学校閉庁日に休むということは、教員は夏季休暇か年次休暇を消化することになるのか。

学校振興課長 そうである。

西野委員 部活動指導について、土日いずれか1日と、平日1日の部活動休養日の徹底というのは、毎週実施しなければならないのか。

学校振興課長 これについては原則として実施ということになっている。大会前や遠征等で土日に部活動を行った場合は、別の土日に休養日を実施してもらうことになる。実際、毎週実施することは難しいと思われる。

吉井委員 子どもの中には、もっと部活動をしてほしいという意見もある。練習して実力を身につけたい、もっと強くなりたいという思いを持つ子どもたちも多い。

学校振興課長 スポーツ庁の部活動ガイドラインでは、教職員の業務改善の視点と生徒の

健全育成の視点があり、生徒に休養をとってもらいたいという思いもあるので、その点も考慮して部活動休養日の実施を進めていきたい。

佐々木教育幹 以前は土日に部活動を実施した場合、月曜日を部活動休養日とする顧問の先生が多かった。今回は、先生に休みを取ってもらいたいという思いから、部活動休養日を設定した。競技にもよるが、部活動が休みで自主練習をした場合は、体育館などに教員が一人ついて、安全に配慮して実施することは可能である。

八田委員 長時間勤務者の状況調査について、家に持ち帰って業務を行っている教員の調査はしているのか。

学校振興課長 現在の調査では実施していないが、今後対応していきたい。

原委員 中学校の80時間以上の長時間勤務者が40%を超えていることについて、部活動が原因なのか。

学校振興課長 そうである。

南部委員 部活動をしていない教員の長時間勤務は少ないのか。

学校振興課長 中学校で部活動を担当していない教員はほとんどいない。安全指導などもあるので、どの教員も何らかの指導をしていることになる。今回の勤務時間調査は5月に行っているが、5月は大会等も多く、練習時間も多き時期にあたるので、この時期は長時間勤務者の割合は高くなる傾向が強い。

(3) 福井フューチャーマイスターの設定区分の見直しについて

八田委員 この制度は、平成30年度から実施するのか。

高校教育課長 そうである。認定前にはなるが、区分表については制度検討の会議でもさらに追加をしてほしいという意見もあったので、区分表に新しいものも加えて各学校には周知している。

夏休みに資格を取る生徒もたくさんいるので、8月20日ぐらいまでに締め切り、9月の就職等での出願までには、福井フューチャーマイスターにおいて自分が何色なのかを書けるようにしたい。

西野委員 ファッションやアートに関するコンクールがたくさん追加されている。これらは、これまでも生徒が参加していたものなのか。

高校教育課長 これまでも多くの生徒が参加していたのに、フューチャーマイスターの対象になっていなかったために点数化されていなかったのを追加した。一方で、参加実績のないコンクール等も追加しており、生徒たちにはそれらのコンクールにも新たに参加してほしいと考えている。

教育長 日程第3、第13号議案を議題

スポーツ保健課長 資料に基づき説明

教育長 第13号議案について、原案に対する異議の有無を確認

————原案どおり可決————

◎協議・報告事項

(4) 学校におけるブロック塀等の安全点検について

(5) 文部科学大臣表彰の推薦について

- ・ 地方教育行政功労者表彰
- ・ 教育者表彰

教育長 本日の会議の終了を宣言

6 閉会宣言 午後4時35分